



アルゼンチンは、南米の右下



はじめに

2002年4月より2005年3月末までの3年間、私は、アルゼンチンのブエノスアイレス日本人学校に勤めていました。アルゼンチンは、南米の右下あたり、細長いチリの東にある、日本の7.5倍もの大きさをもつ国です。公用語はスペイン語で、スペイン、イタリアからの移民の多い国です。国が南北に長いのでさまざまな気候があり、首都ブエノスアイレスには

雪こそ降らないものの、ゆるやかな四季があります。サッカーは国中で愛されているスポーツで、休日には公園でサッカーに興じる人も数多く見られます。また、タンゴやフォルクローレなどの音楽、ダンスの他、オペラ、バレエなどの芸術活動も首都近辺では盛んです。しかし、郊外に出れば貧しい人たちの住む小家が建ち並び、観光地や地下鉄の中は、物乞いをする人であふれています。



青空の下での運動会

ブエノスアイレス日本人学校について

小学部と中学部からなるブエノスアイレス日本人学校は、児童生徒30名弱、日本からの派遣教員10名、現地採用教職員6名のこじんまりとした学校です。校舎は個人の邸宅を改修したもので、閑静な住宅街の一角にあります。近くには、公立学校、いくつかの私立学校もあります。子どもたちはスクールバスで登下校をします。休み時間には、小学生中学生一緒になって、サッカーやテニスをしたり、鬼ごっこをしたりして仲良く

過ごします。スペイン語と英語のネイティブスピーカーによる授業も毎日15分ずつあり、運動不足を補うための体力づくりの時間も設けられています。そして、月水金は給食があります。



名前を漢字に直して説明中

交流学習について

現地の子供たちとスペイン語、英語を使いながらふれあうことを目的として、20年以上前から交流学習を進めています。歩いて5分の私立校とは、ほぼ同学年のクラスと年に5回程度、場所を交替しながら交流を行っています。低学年は、それぞれの国の遊びや音楽を通してふれあい、高学年は、手作り名刺を渡す、平和について考える、名前を漢字に直して意味を教えるなど、言葉を使った交流になるよう取り組んでいます。



職場体験学習での生徒たち

中学部進路学習について

この3年間は、中学部の在籍数も数年ぶりに多く、毎年、卒業生を送り出し、とても活気がありました。進路学習も計画的に行っており、職業調べや上級学校調べはもちろん、これまでになかった卒業生の話を聞く会、職場体験学習なども行いました。職場体験学習では、安全面で問題のない日本語の通じる職場を探すことが難しく、実施した2年間はどちらもJICA関係の職場にお世話になりました。短時間の体験ではありましたが、質問をする時間もあり、働くことについての考えを深めることができましたようでした。

ほとんどの生徒が日本の高校へ進学することを考えています。日本にいれば、先輩や兄弟を通じていろいろな情報を得ることができますが、こちらではインターネットで調べたり、一時帰国できた場合に学校訪問をしたりといった方法しかありません。もちろん、派遣教員は出身都道府県以外の高校について進路指導をし、出願手続きなどを行わなければなりません。そのために、各都道府県教育委員会や高校とは何度も電話やメールでやりとりをします。また、該当する都道府県の中学校教員が学校内にいればよいのですが、小規模校の場合めったにありませんので、教員同士のネットワークを利用することや、これまでの派遣教員の中から該当する都道府県の教員を探しコンタクトをとることで、ずいぶん助けられたように思います。

研修について～「子どもたちが有益感を持つことのできる指導の工夫」～

1年目の研究主題は「互いに関わり合いながら、現地理解を進める実践」というものでした。アルゼンチンならではの素材を用いて、現地理解につながる授業を進めるおもしろさがありましたが、教科によってはそれが難しいということもあり、2年目には「子どもたちが有益感を持つことのできる指導の工夫」という研究主題が設けられ、3年目も引き継がれました。

「個に応じた手だてを工夫することによって自己有益感が高まり、それはやがて主体的に学習する態度(生きる力)につながる」という研究仮説を立て、全派遣教員が年1回の授業研究を行い、教科、小学校中学校の枠をこえ、活発に意見を交換し合いました。また、日亜学院という日系の私立学校の教員と、毎年2回の合同研修会を行っており、互いにより刺激を受けています。

おわりに

スペイン語を習い、町を歩き、人々の様子を観察し、ふれあいながら、アルゼンチンという国を楽しみました。おおらかで情熱的なこの国が大好きになりました。日本人学校の子どもたち、保護者の方々、教職員とその家族のみなさんとも、家族のように親しくさせていただきました。帰国して4か月たった今、アルゼンチンでの3年間は夢のようですが、思い出すたびに胸が熱くなります。

最後になりましたが、日本人学校勤務が決まるまでにお世話になった方々、留守中、日本から応援してくださった方々、3年間のアルゼンチン生活を支えてくださった方々に、心より感謝申し上げます。

¡Muchas gracias! (ムチャス グラシアス どうもありがとう)



首都ブエノスアイレスのシンボル、オベリスコ